

ふるさと暮らし続ける ことができるまちづくり

定住自立圏構想の取り組み

人口減少や少子高齢化が急速に進行するとともに、厳しい財政状況の中で将来にわたって暮らしていくことができる登別市の実現には、近隣市との連携が必要です。今月号では、広域でのまちづくりの手法の一つである『定住自立圏構想』の取り組みについてお知らせします。

『定住自立圏構想』とは

『定住自立圏構想』とは、圏域の核となる人口5万人程度以上で昼夜間人口比率が1以上の『中心市』が周辺の市町村と協定を結び、それぞれの役割分担や連携を図りながら、圏域全体の暮らしに必要な都市機能を確認することで地域の魅力を高め、地域の自立を促し、人口流出を防ぐことをねらいとした国が提唱する新たな広域連携の取り組みです。

現在、西胆振圏域（登別市、室蘭市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町）では、定住自立圏構想を活用した広域での取り組みについて検討を進めています。

室蘭市が『中心市』を宣言

昨年12月15日、西胆振圏域で唯一『中心市』の要件を満たしている室蘭市が第4回室蘭市議会定例会において、西胆振

圏域の定住自立圏構想の中心市となることを宣言しました。

中心市宣言とは、国の定住自立圏構想推進要綱に基づき、周辺市町村と地域における人口定住のために連携しようとする中心市が、圏域として必要な生活機能の確保に関して中心的な役割を担う意思を有することなどを明らかにするもので、宣言では連携を想定する取り組みが示されています。

1. 生活機能の強化
 2. 結びつきやネットワークの強化
 3. 圏域マネジメント
- について分野ごとの連携事業のイメージが示されています。

今後も継続して、室蘭市と周辺市町（登別市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町）で、医療や福祉、産業、観光などでの連携について検討し、協定の実施を含めた協議を行っていきます。

問い合わせ
企画グループ
(☎85) 1 1 2 2

中心市宣言に記載された 周辺市町と連携を想定する取り組み

連携を想定する取り組み		連携事業のイメージ
生活機能の強化	医療	地域救急医療体制の維持・確保 診療情報などのネットワーク化を促進
	防災	室蘭市の医療機関との連携による災害医療の充実 避難場所の確保、生活物資の供給など円滑な避難対応
	産業振興	室蘭市の試験研究機関などと連携した1次産業などの振興に関わる技術開発と地域の農水産物を活用した食のブランド化などの農商工連携の促進 室蘭市のもづくり資源や交通機能、登別温泉や洞爺湖温泉、洞爺湖有珠山ジオパークなど周辺市町の観光拠点との結びつきの強化と滞在型観光の推進
	環境	室蘭工業大学や室蘭テクノセンターなどと連携した、再生可能エネルギー・再生素材の研究開発と活用 住民生活における省エネルギーや環境意識の向上の促進や地球温暖化対策など環境問題に関わる連携を推進
	教育	室蘭市のもづくり資源や周辺市町の歴史・文化遺産などの地域資源を活用した小中学校の幅広い教育を推進 室蘭工業大学や各種専修学校と連携した地域に必要な人材の育成
結びつきやネットワークの強化	地域公共交通	室蘭市と周辺市町を結ぶ民間バスやJRなど、地域公共交通の維持・確保
	デジタル・ディバイドの解消へ向けたICTインフラ整備(情報基盤整備)	医療機関における診療情報などのネットワーク化 行政サービス・教育・観光分野などでのICT活用の促進と地域情報化の推進
	地域の生産者や消費者などの連携による地産地消	周辺市町の農水産物を活用した食育や直売の推進、室蘭市内の店舗などでの地元農水産物の利用促進など地域の農水産物を活用した地産地消を推進
	地域内外の住民の交流・移住促進	室蘭市の医療や雇用、周辺市町の自然や観光など移住促進の情報を発信
圏域マネジメント能力の強化	宣言中心市などにおける人材の育成と活用	室蘭工業大学との連携や合同職員研修などの実施による行政機能の多様化や高度化に対応した行政人材の育成 NPOなどの地域活動人材や民間人材を活用した圏域マネジメント能力の強化
	行政事務の共同実施	室蘭市と周辺市町の行政事務の共同処理による行政サービスの維持と効率化